

映像アーカイブを用いた地域の歴史文化理解の可能性と課題

—京都市原谷地域における実践活動より—

○北村 順生 (KITAMURA Yorio)

Keywords : 映像アーカイブ、アーカイブ活用、地域文化、教育、実践研究

1 目的

本研究の目的は、地域社会に残された写真やフィルムなどを映像資料について、映像アーカイブとして収集、整理していくと同時に、それらを地域の歴史や文化を理解するための素材として活用していく可能性について明らかにすることにある。近年、デジタル技術の普及や地域社会の再活性化への関心の高まりなどを背景として、地域の映像資料を映像アーカイブとして保存し、活用していきこうという事例が各地で広がりつつある。しかし、こうしたアーカイブ活用の活動については、その重要性は広く認められつつあるものの、具体的な効用や課題については十分に明らかになってはいない。本研究では、映像アーカイブ資料の教育面での活用について、その可能性と課題について明らかにすることを目的としている。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、立命館大学映像学部北村ゼミにおいて3年間に渡り実施してきた教育実践をもとに行うものである。同実践においては、京都市北区原谷地域の歴史と文化について、地域に残されている写真やフィルムを素材としつつ、地域社会の理解と発見をテーマに教育を実施してきた。実践活動を通じて受講生たちが得た学びや気づきについては、デジタル・ストーリーテリング形式の映像を用いて表現し、他地域の大学との交流授業における合評会を通じて発表してきた。本研究においては、これらの受講生が制作した映像や合評会における相互コメント、および実践活動全般に対する分析を行ったものである。

3 結果

調査・分析の結果によれば、ほとんどの受講生において、映像アーカイブの映像資料を活用することにより、地域の歴史文化の理解と再発見が深まっていることが確認された。とくに、戦後の農地開拓による開発という原谷地域の特徴について、現在の同地域の風景とは異なる当時の視覚的イメージが確認できたことにより、より具体的に理解が深まったことが確認できた。

4 結論

以上により、映像アーカイブの活用により地域の歴史文化の理解を深めていくことには大きな可能性があると言える。一方で、具体的な実践活動を通じて、映像アーカイブという対象の特異性に関連した課題や問題点も明らかになった。

【主要参考文献】

- 北村順生(2018)「デジタル映像アーカイブを活用したワークショップの試み」原田健一・水島久光編『手と足と眼と耳—地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』学文社,pp.202-215
- 北村順生(2016)「地域映像アーカイブの教育利用に関する事例研究—南魚沼実践の報告から」『人文科学研究』新潟大学人文学部,第138輯,pp.177-195
- 北村順生(2013)「地域メディアと映像アーカイブをつなげる」原田健一・石井仁志編『懐かしさは未来とともにやってくる—地域映像アーカイブの理論と実際』学文社,pp.231-246